



このメールマガジンは、今週発売となる日経ビジネスの中から気になった記事を選び、私なりの視点で考えたことについてお伝えするものです。会社での朝礼時のネタ、取引先との会話、同僚との間の話題づくりにお役に立てたらと思い、毎週月曜日に発信いたします。

「日経ビジネス2012年10月29日号 no.1664
『次代を創る100人』より

【すごいやつらがいるもんだ】

これからの日本を変える可能性を秘めた人物を、日経が100名選出しました。

昨年もこの企画が組まれていました。その時に私が選んだのは、【GAME CHANGER(変革者)】「橋下徹 大阪府知事(当時)」、【CREATOR(創造者)】「井口 尊仁 頓知ドットCEO」、【HERO(勇士)】「香川真司 独ボルシア・ドルトムント(当時)」、【LEADER(先導者)】「孫 正義 ソフトバンク社長」、【THINKER(思索家)】「山口 絵理子 マザーハウス社長」でした。

今年も強烈な光を放つ100名から、私の気になる人物を選びます。

【REVOLUTIONIST(改革者)】「小林 りん インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢設立準備財団代表理事

小林氏は、アジアの真のリーダーを育成しようと、全寮制高校「インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢」開校に向けて、日々併走しています。最初はなかなか賛同を得ることができなかったこのプランが、大きく前に動き出したきっかけは、2010年に実施したサマースクールでした。

それまでは、「海外からこんないい先生を連れてきて、こんな素晴らしい生徒を連れてきて」と、アイデアばかりを挙げるだけでした。本当であれば、すぐにも学校を立ち上げたいと思っていたのですが、そこをぐっとこらえて、サマーキャンプから地道に始めることにしたのです。

「アジアのいろんな国から生徒たちを連れてくる予定です」と言うのと「連れてきました」では全然説得力が違いますし、「世界中のトップボーディングスクール(＝寄宿制のエリート養成校)から先生を連れてくるんですよ」と言うのと「連れてきました」では全然違います。

結局のところ、どんなに頭のいい人がそれらしいことを言ったとしても、本当の信頼は得られません。まずは不完全だとしても形に見えるようにすることが大事なのだと思います。

改革者とは、夢物語を語る人ではなく、夢物語を形にする人なのです。

【CREATOR(創造者)】「尾田栄一郎 漫画家」

尾田氏は、「ワンピース」という漫画を描き続けている作家さんです。

漫画「ワンピース」は、夢への冒険・仲間達との友情といったテーマを前面に掲げた物語なのですが、私が魅かれてやまないのは、登場人物が発する言葉です。

言葉は重要です。組織一つをまとめ上げるのに、あるいはあっけなく崩壊させるのに、言葉一つあれば十分です。

どのタイミングでどの言葉を、どのような口調で使うのかによって、同じ言葉でも効果は大きく異なります。尾田氏は、描く漫画とそのキャラクターに喋らせる言葉を巧みに使い、読者の心を掴んで離しません。

尾田氏がすごいのは、これがすべて想像上の物語だということです。

創造者とは、無から有を生み、しかもそれを巧みに操ることで、多くの人々を魅了することができる人なのです。

【HERO(勇士)】「清武弘嗣 独ニユルンベルク」

今年の夏に行われたロンドンオリンピックのエジプト戦で見せた清武選手のパスにしばれました。前半14分、右サイドで清武選手が素早いプレスでボールを奪い、裏を走る永井に出した絶妙なパスです。走り込んだ永井が飛び出してきたゴールキーパーをかわして、無人のゴールに流し込んだアレです。

私もサッカーをやっている端くれとして言いますが、あの場面、普通あのタイミングでパスは出しません。ボールを奪い、目の前に誰もいないフリーな状態です。スピードに乗っていらしたので、ゴールに向かってドリブルで進むことを選択する方が普通です。あの状況であのクロスをあ角度と速さで送り込むところに清武選手のすごさがあります。

誰もが選択肢を持っています。うまくいくかいかないかは、やってみないとわかりません。

勇士とは、定石をは異なる選択肢を選び、しかも尋常ならぬ正確さで成し遂げる人なのです。

【LEADER(先導者)】「坂本 孝 VAJUE CREATE社長」

坂本氏は、あのブックオフコーポレーションの創業者です。独自のシステムによって古本業界の流通に大改革をもたらしました。

その坂本氏が今行っている事業は、本格的洋食をリーズナブルに提供する外食産業です。「俺のイタリアン」、「俺のフレンチ」と言えば、ご存じの方もいるでしょう。

店舗は立ち飲みスタイル、ワインを飲んでも3000円も出せばお腹いっぱい食べられ、しかも料理を作っているのは、シェ松尾の総料理長やジョエル・ロブションのシェフといった名だたるシェフたちです。

この事業の着眼点は、お店の稼働率にあります。食べたいと思うものの、価格や敷居の高さから敬遠しがちなフレンチやイタリアンの、高級店で1万5000円はするような料理を1500円程度で食べられる店だということが知れ渡った時点でお客さんが来るのが保証されています。

原価率は高くとも店の回転率で挑むという発想を具現化し、営業時間をフル回転させることで必要最低限以上の売上を確保し人件費や家賃といった固定費を賄うこのビジネスモデル、なかなか勇気がなければできません。

先導者とは、理屈では分かるが実際にはできないようなことを、思い切って体現できる人なのです。

【THINKER(思索家)】「豊田 章夫 トヨタ社長」

レーシングスーツに身を包み、発売前の車に乗り込んでサーキットを自分の腕で運転する姿は、豊田家の御曹司というイメージからかけ離れています。

一見地味ですが、就任早々米国のリコール問題、東日本大震災やタイの洪水によるサプライチェーンの寸断など、様々な困難を乗り越えてきた手腕は並大抵ではありません。

精神的に強いのとともに、考え抜く力が抜きに出ているからできることなのではないでしょうか。

トヨタの創業者、豊田喜一郎の孫であり、父の章一郎の一字を受け継ぐ名門中の名門という宿命の元、日本を代表する企業を率いて、トヨタをどこに向わせようとしているのでしょうか。

思索家とは、運命を受け入れ、翻弄されながらも最適解を見つけ出すことができる人なのです。

閉塞感に苛まれる日本でも、錚々たる顔ぶれを見ると、何でもできるような気がします。

日本には、すごいやつらがいるものです。